

令和元年度 第2回 清瀬市史編さん委員会
議 事 要 旨

日 時： 令和元年 11 月 11 日（月）

午後 2 時～4 時

場 所： 第 2 委員会室（市役所本庁舎 4 階）

出席委員： 根岸茂夫、栗山 究、谷口康浩、浅倉直美、黒川徳男、齊藤隆雄、齊藤靖夫、
岡田耕輔、小西一午、中澤弘行（10 名）

欠席委員： 黒田一美（1 名）

事 務 局： 企画部長、市史編さん室長、市史係 3 名（5 名）

《次 第》

1. 開 会
2. 専門部会活動状況について
3. 『清瀬市史 3 資料編 古代・中世』について
4. 『市史研究 きよせ』第 5 号について
5. 市制施行 50 周年記念誌（啓発版）について
6. その他
7. 閉 会

《配布資料等》

1. 会議次第（令和元年度 第 2 回 清瀬市史編さん委員会 次第）
2. 『市史研究 きよせ』第 5 号 構成案【資料 I】

《審議経過》

1. 開 会

委 員 長 お忙しい中お集りいただきありがとうございます。ただ今より、令和元年度第 2 回清瀬市史編さん委員会を開催します。

清瀬市史編さん委員会の発足時よりご尽力いただいております
坂間和英委員が、去る 9 月 7 日逝去されました。ここに謹んでご冥福をお

祈りしまして黙祷をささげたいと思います。

(一同黙祷)

議事に入る前に、事務局より配布資料についてご説明ください。

事務局 (配布資料について説明)

2. 専門部会活動状況について

委員長 では、議事に沿って進めていきたいと思います。まず、専門部会の活動状況について、各部長からご報告をお願いしたいと思います。

考古部会について、谷口先生お願いします。

考古部会長 考古部会は、今年度は年 4 回の部会を予定しており、うち 2 回を既に開催しました。部会の内容としましては、活動の進捗状況の報告と、課題の検討を進めています。資料編の編さんに向けての作業を分担しているので、それぞれの担当者から担当作業の進捗状況について報告を受け、課題を検討しています。資料編についてはすでに目次案ができており、それぞれの章を担当していただく方々も決まっております。資料編に掲載する資料の選定や遺跡の分布図について検討をしています。図が多いので、図のサイズ、スケールなどかなり具体的なところを検討しています。

もう一つの柱としては、掲載する資料だけでなく、市内で見つかっている資料で未報告になっているものがあり、そういった資料の調査を進めています。昨年度は「資料調査報告 1」としまして、渋谷氏のお宅にある中世の関係の遺構と出土物の調査報告書を刊行しました。今年度は、強清水遺跡出土の旧石器時代を中心とした出土資料の整理と、市内の未報告の縄文時代の資料について調査を進めており、年度末に「資料調査報告 2」として刊行したいと考えています。

また、部会を開催する折に、関連するテーマで勉強会を開催しています。第 1 回は委員長であり近世部会長である根岸先生においでいただき、下宿内山遺跡を中心に「近世の下宿地域」についてお話いただきました。第 2 回は、所沢市立埋蔵文化財調査センター所長の根本靖氏にお越しいただき、この地域の下宿内山遺跡と柳瀬川流域の古代の遺物、特に須恵器についてご講演をいただきました。以上です。

委員長／近世部会長 ありがとうございます。何かご意見ご質問等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

続いての古代・中世部会につきましては、次の議題 3 『清瀬市史 3 資

料編 古代・中世』について」でお願いすることにしまして、近世部会について私からご報告します。

近世は、来年度、資料編刊行となりますので、そのための作業を毎月1回、コミュニティプラザひまわりの作業室に集まって行なっています。市内資料の確認とともに資料編目次と掲載資料の検討をしております。目次はもう出来上がり、掲載資料をこれから確定していく段階になっています。ほとんどが未翻刻の古文書ですので、各調査員が家で翻刻作業を進めていますが、まだ予定の半分くらいという進捗状況です。

市外の資料調査は若干遅れています。周辺市、なかには名古屋や大阪に資料があることが分かっているのですが、見に行く機会がない状況にあります。通史の刊行に合わせて順次やっていこうかと思っています。

一方で、前の『清瀬市史』のときに使っていた資料で散逸しているものがあります。そのうち写真に残っているものをいくつか集めていますが、こうしたものも検討しながら掲載しようと思っています。

下清戸の近世資料がほとんどなく、寺院の文書で写真に残っているものが若干あるといった状況です。上清戸は村野家の資料がありますが、中清戸、下清戸の資料がなく困っている状況です。野塩、中里、下宿は、ずいぶん残っています。中里は特に渋谷信之家文書が新たに発見され、そのなかで中里の近世の諸問題とか、中里を知行した旗本武蔵氏との関係がずいぶん分かってきましたので、これは新しい成果になるかと思っています。今回考古部会で調査していただいた渋谷氏のお宅の土墨は、場合によっては武蔵氏の陣屋跡ではないかという気もするのですが、そのあたりも考えながら慎重に検討していきたいと思っています。

委 員

資料編を検討中ということですが、ぜひ載せていただきたいものがあります。天保の清瀬の絵図が3枚あります。下宿、中里、上清戸のものです。下宿と中里のものは前の『清瀬市史』に複製版が載っているのですが、複製なので、描かれてない部分があったり誤りがあったりします。上清戸の絵図は写真がぼやけていて見えないところがあります。新しい市史ではこの3つの絵図に関して、現物の鮮明な写真を載せていただきたいと思います。そうすれば、郷土研究会などの方にとって有益な資料になります。

委 員 長

3枚の絵図に関しては、トレースを含めて載せようと思っています。文字を活字に直しながら読みやすくする工夫もしたいと思っています。上清戸の絵図は、村野家から新たに出土したものも何点かあります。前の絵図も詳しいのですが、できれば新しい資料を載せていきたいと考えています。

委員 読みやすい形で書き直すのはよいと思います。もうひとつは、現物を
見たいときに電子版などで見られるとよいと思います。本にしなくても
よいのですが、一般の人がアクセスできる形で残しておいていただきた
いと思います。博物館の資料整理をしたときに見た資料の現物には、虫
食いがありました。そこを復刻するときはどう処理するのかという問題
もあります。

委員 長 できれば写真版とトレースと両方を載せる工夫をしたいと思います。
資料編も、なるべく文字ばかりでなく写真を入れたり解説を入れて読み
やすくするつもりでいます。

委員 写真や図があるのがいいですね。言葉だけではわからなかったところ
がよくわかります。

委員 長 他によろしいでしょうか。なければ次に近代、現代についての報告を
黒川先生お願いします。

現代部会長 現代部会ですが、事実上、近代の資料も調査しております。9月10月
の直近の動きについてご報告したいと思います。

まず、博物館に移管されている明治時代からの行政文書を、部会で調
査しました。段ボール箱にあるすべての簿冊を見て、資料編や通史編に
有用かどうかという評価を簿冊毎に行い、一通り完了しました。

次に、東京都の公文書館が10月末で今年度休館になりましたが、休館
前に駆け込みで資料の調査をしました。「清瀬」という地名が出てくるも
のを悉皆にて撮影しようと考えたのですが、全く同じ文書が各部局から
出てくるので、悉皆調査から重要なものの撮影に切り替え、一通り写真
化しました。公文書館は、また来年4月からオープンしますが、調査を
再開するかどうかは一考を要するところです。

東京病院附属リハビリテーション学院がかつて清瀬にありました。そ
の関係者からの聞き取りを2回行いました。1回は副学院長のご子息から
お話を伺い、2回目は卒業生、教員、事務の方に集まっただいて複数
名でお話をさせていただきました。その機会に、大学で教えている学院卒
業生の研究室にリハビリテーション学院の一次資料が保存されていると
いうことがわかりましたので、その資料をお借りする動きになっていま
す。

各担当者はそれぞれの担当分野の調査を進めています。以上です。

委員 長 ありがとうございます。ご意見、ご質問ないでしょうか。よろしいで
しょうか。

委員 了承

3. 『清瀬市史 3 資料編 古代・中世』について

委 員 長 それでは、続きまして議題 3 の『清瀬市史 3 資料編 古代・中世』について、まず事務局からご説明をお願いします。

事 務 局 進行状況ですが、古代・中世部会から執筆原稿をいただき、随時業者に入稿し、初校ゲラの確認をしていただいているところです。市史編さん室でもゲラの確認を行い、掲載許諾の手続きを進めているところです。参考資料としてページのレイアウト例をお配りしていますのでご覧ください。

委 員 長 それでは、古代・中世部会長の浅倉先生からお願いします。

古代・中世部会長 いま、初校が半分くらい出てきている状況です。市史編さん室でかなり丁寧に見てくださっています。通史編を出すための資料編という位置づけが主なものですので、学術的なレベルを高めつつ、しかも市民の皆さんから遠いものにならないように、ということで市史編さん室から細かいご要望も出ています。どこまで応えられるか、時間と頁の余白を見ながら調整しているところです。

目次についてお話しますと、第 1 部の古代については、悲田処関係の章を一つ立てて全国的なものを集めました。多摩郡にあたる東京都の自治体史では多摩郡だけの史料が集められているところが大半ですが、地理的に埼玉県に突き出している清瀬としては、地域的な特色から言っても入間郡からも多いに影響を受けていたことが、考古部会の研究成果からもわかっています。古代の清瀬の人は入間郡か多摩郡かを意識して生活していたわけではないのではないか。明らかな史料はありませんが、かなり距離のある武蔵国の国府よりも、むしろ荒川に向かった入間郡側を向いて生活していたのではないかと。こうした考えから両方の郡を視野にいれるというチャレンジングな試みをしております。解説もそういう視点で加えたものを入れています。

第 2 部の中世では、同じように多摩郡、入間郡、つまり多摩と埼玉、両方の鎌倉期から南北朝の史料を集めました。第 2 部の第 2 章は写真を多く入れる形になっています。主にページ上部に写真、下に解説というレイアウトです。おかげさまで多くの調査をさせていただきましたので、その報告をあますところなく 1 ページ 1 文書で掲載する、ということになりますと、文字数の多い文書の場合は翻刻に行数が必要になる分、解説が短くなっているところもありますが、全体として山内上杉氏の資料を通観していただけるものになっています。

また、北条氏照関係のものはまだ校正ができていませんが、こちらも写真がメインとなっています。

清瀬にとりましては、第2章第1節の「清戸をめぐって」と「十玉坊」は、ページ数は多くはありませんが、「清瀬」を主語で作りましたので、市民の皆さんに身近に感じていただけたと思います。

この先は、掲載許諾等の手続きがあり、編さん室の皆様にはまたお世話になりますがよろしく願いいたします。

委員長 浅倉先生に説明していただいた資料編の内容について、なにかご意見、ご質問ありますでしょうか。

委員 目次を見ますと「花押」と書かれた項目がかなりの数並んでいます、これはどれくらいのボリュームになるのでしょうか。

古代・中世部会長 編年にせず、ひとりひとりの文書に分けて掲載する意図からこのような形になっています。花押のある文書を載せているのは、およその数ですが山内上杉氏に関して 200 ページ程度、北条氏照の関係が 150 ページ程度、氏照の家臣に関して 30 ページ位です。

資料編全体のボリュームをお話すると、第1部の古代が約 100 ページ、第2部の中世が 550 ページ、第3部の板碑が約 100 ページ、全体で約 800 ページとなっています。

委員 花押のボリュームが多いのはどういうことからですか。

古代・中世部会長 文書には朱印状と花押のものがありますが、清瀬市に直結した文書は本当に限られているので、この周辺を治めていた山内上杉氏と北条氏照の文書を追いました。また、氏照の文書も『八王子市史』に既に載っているので、同じような掲載ではなく、清瀬の独自色を出すために写真をメインにして、氏照は花押を追うことにし、山内上杉氏についても同様にしようと考えました。花押を追うのですが、即ち人物を追うという内容です。北条氏照に関しては、花押が載っている文書のほぼ 9 割を集めることができましたので、今後、氏照の研究をするには『清瀬市史』がなくてはならない内容となっています。目次に、判物と書いただけではこの特色がわかりにくいので「花押」を押し出した形になっています。

委員 専門外の者から見ると、目次にこれだけ花押が並ぶのには違和感がありますが、中世ではこういうものですか？

古代・中世部会長 第5節に関しては「氏照の花押」としないと、同じ分量だけ朱印状があるので「花押」とする必要があるのですが、たしかに目次を改めて見ると、気になるのはわかります。

委員 「花押」とすると、花押部分だけがあるのかという印象があります。例えば、「文書と花押」としてはいかがでしょうか。実際に載っているの

は文書で、「判物」とすると分かりにくいと考えて「花押」となさったのだと思うのですが、花押だけを想像されるのは残念です。「文書と花押」とある方が全体のイメージはとりやすい気がします。

古代・中世部会長 花押の編年が重要なので、そこを重点的にというなかで目次がこうなっていますので、一考します。

委 員 道についてお聞きします。鎌倉街道が出てきますが、主な街道は載りますか？ 清瀬では「府中道」「八王子道」といった言葉が多少残っていますが、そういったことに触れるのでしょうか。また、前の市史に「滝山街道」という表現があります。中清戸と下清戸の間の細い道で、下宿に抜ける道をそう言ったということが書いてあるのですが、私が調べた範囲では誰も知りません。どこか別の場所と間違えたのではないか。もうひとつは、滝山街道と御殿山を映したという写真が載っていますが、それは御殿山ではありません。そのように信ぴょう性についていささか疑問があります。先生が史料を調べていらっしゃるなかで滝山街道といった表現が清瀬近辺ではかにあるのか、どこかで目にしていられしやたら教えていただきたいのですが。

古代・中世部会長 道の問題はなかなかむつかしく、近世になれば史料上もはっきりしていくのですが、中世の道に関して今ご指摘いただいた辺りまで明確に資料編で出せるか、というのは難しいところです。「清戸」が載っている文書は3、4点しかありませんので、限られた史料のなかから清瀬を浮かびあがらせるには、岩槻と府中を結ぶ動きの中で「清戸」をおさえるというところで、解説を苦労したところでもあります。

委 員 東久留米に団地の名前にもなっている滝山という名がありますが、滝の城と滝山城を結ぶところに滝山という名前がぼつぼつと残っているとあったことがあるのでしょうか。

古代・中世部会長 滝の城を、いつからそう呼んでいるかですが、中世ではその名前はまったく出てきません。清戸三番衆がどこを警護していたかについて、清瀬の川の南側の道のどこかに木戸があってその番所と滝の城とセットで清戸番所と呼んでいたのだらうという見解になりました。「清戸」は、所沢のお城のところまで含めて言っていたのではないか、そこまでが残された史料とほかに集めた史料から言える限度です。八王子の滝山城とどこまで連動しているかについてははっきり言うのは難しく、資料編ではそこまでは踏み込まず、2、3点の史料から少し述べたところです。

一番衆、二番衆の史料がないなかで三番衆の文書だけがクローズアップされているので、清瀬から冷静な分析を促すような出発点になればよいかなと思っています。

委員 悲田処と清瀬のかかわりはどの程度あるのでしょうか。

古代・中世部会長 結論から申しますと、わかりません。史料も限られていますし、千年以上前のことになりますので、残されている史料からは、わかりません。

ここで悲田処を取り上げているのは、その場所がどこであったかということよりも、それが今の清瀬市域にどの程度の影響を与えたのかを検討することが大事だと考えてのことです。悲田処自体の研究もこの30年ほどほとんど進んでいませんので、史料を集めることでまた研究が進むきっかけになればよいかと考えました。

また、古代の資料編はこのようにテーマを設定することがあまりありません。史料が限られているので、東京都内で資料編を作ろうとすると皆同じ史料にならざるを得ないので各自治体で解説を工夫しているところですよ。今回の清瀬の場合は古代と中世が1冊にまとまって出ますので、中世的な編さん手法を用いて古代でもテーマを設定し、悲田処の重要性をもう一度考えるというところに焦点を置きました。少ない史料から今後研究を進めていくには、無理に場所を特定するよりも別の方法で進める必要があるのではないかと清瀬から発信できるような資料集になっていると思います。悲田処が多摩郡と入間郡の境にあることも重要なので、そのあたりから研究が進むとよいと思い、努力しているところです。

委員長 ありがとうございます。他にはよろしいでしょうか。

委員 第3部の清瀬の板碑は、どういう観点から取り上げられたのでしょうか。

古代・中世部会長 中世の古文書で市域に直接関係するものは市内には残っておりませんで、文書はすべて市外のもので。一方、板碑は市域に直接関係する中世の文字が残っている唯一のもので。清瀬の板碑のほとんどが出土遺物ですから本来は考古編に入るべきものなのですが、考古部会長にもご相談申し上げて、古代・中世部会で改めて拓本をとり直し、今回の資料編にそのすべてを編年順に掲載させていただくことにしました。写真と拓本、どういう文字が書かれているかについて1ページに板碑を2、3点分ずつ掲載します。これが清瀬に残っている中世の資料です。

委員 民俗的なものまでは言及するものではないですね。

古代・中世部会長 文字に残っているものはご紹介し、人名までは追える形になっています。

委員 わかりました。

委員長 ほかによろしいでしょうか。では次に装丁について、事務局からご説明ください。

事務局 事務局で装丁のデザイン案を作成しました。ご覧いただいてご意見い

ただきたいと思います。カバーと、カバーを外したときの本体の表紙は同じデザインを考えています。題字の配置であるとか、ベースとなる色調などについてご意見いただけますでしょうか。

委員長 表紙に古文書と板碑では、本のイメージが硬いかなと思いますが、いかがでしょうか。

古代・中世部会長 古代中世で柔らかい感じというと、花押を並べるといったことになるでしょうか。今、表紙にあしらわれている文書は、「清戸」という文字が出てくる2点しかない史料の1点です。しかも、これまで東京大学史料編纂所が明治期に作った精巧な模写しか見られていなかったところ、今回の調査で現物にあたることのできた貴重な史料です。できればこの「清戸」とわかる文書がよいかと思います。板碑を大きくあしらうのもよいと思います。

委員長 古文書があしらってあるのはすごく雰囲気がいいと思います。

委員長 原寸大の花押を載せますか。

古代・中世部会長 氏照の花押は、売りですので、それもよいかと思います。編さん室と相談しながら工夫できるとよいと思っています。

委員長 タイトルの文字がもっと大きい方がよいと思います。

委員長 6冊同じ装丁デザインになるのでしょうか。

委員長 時代によってそれぞれの時代を代表する写真や図をあしらうということですね。そうすると、それぞれに合う色があるかと思いますが、少なくとも背表紙は統一されていた方がよいと思います。

委員長 清瀬の色、というのはあるのですか？

委員長 緑とか、でしょうか。

考古部会長 考古の場合、修復した土器を写真家に撮影してもらおうと思っていて、そのなかから表紙に使えるとよいなと思っているのですが、そうすると土器に合う背景色があります。なので、背表紙は統一するとして、表紙の色あいには裁量が残されているとよいと思います。

委員長 どこかは統一するが、色は時代ごとに合ったものにするということになりますか。

委員長 背表紙を統一するのは一つのよい案だと思います。

委員長 背表紙から裏表紙までは同じ色にし、表の表紙部分については図や写真に合う色にするというのはどうでしょうか。

委員長 その場合もある程度調和する色調がよいですね。

委員長 図書館では背表紙が並びます。多摩地区の自治体史という集合体の中で清瀬が東村山などの隣になる。背表紙に統一感がないとダメだということもありますが、ほかの自治体に負けたくない。パッとみて、負けている色

や文字だとくやしいので、背表紙が目立つようにつくってください。

委 員 色のことですが、清瀬の特産はニンジンだということで、ニンジンの色、オレンジ色はいかがでしょうか。上品な色調であれば選択肢のひとつになるかと思います。

委 員 いいですね。

委 員 長 実際にデザインを見てみないとなんとも言えないところがありますから、業者からカバーのデザイン案をいくつか作ってもらい、それを見てもらってはどうか。

事 務 局 いただいたご意見をもとに業者にデザイン案を出してもらい、皆さんに見ていただけるようにします。

頒布に関してですが、価格は 1 冊 2 千円あるいは 2,200 円で考えています。入札価格から算出した数字です。

委 員 今回、1 冊目なので入札価格がずいぶん低かったので算出価格がこうなっていますが、今後がどういう数字になるかはわかりません。

委 員 長 他に議事 3 の『清瀬市史 3 資料編 古代・中世』について、なにかございますか。よろしいでしょうか。

委 員 了承

4. 『市史研究 きよせ』第 5 号について

委 員 長 では、続いて議事 4 「『市史研究 きよせ』第 5 号について」に移ります。事務局からご説明をお願いします。

事 務 局 【資料 I】『清瀬市史 きよせ』第 5 号の構成案をごらんください。第 5 号の内容としては、このように考えています。

今年度刊行する『清瀬市史 3 資料編 古代・中世』についての記事を 2 ページ、また考古部会でご講演いただきました内容について仮題ですが「市内遺跡出土土器からみた古代の清瀬とその周辺」として 15 ページ、現代部会の調査報告を 15 ページ、聞き取り調査報告を 20 ページ、市史講演会の報告を 2 ページ、専門部会調査報告を各部会 2 ページ、石碑・石仏探訪を 2 ページ、このページは委員の方にご担当いただきたいと思います。まだお書きいただいていない委員にお願いできればと思っております。このほかに、市史編さん覚書として 12 ページ、ここに基本方針、市史編さん委員会開催状況、市史で候タイトル一覧、関係者名簿を掲載します。資料提供のお願いなどを含み、84 ページを予定しています。

委 員 長 この件について何かございますか？

現代部会長 現代部会調査報告としましては、清瀬の議会の会議録の付属文書と、東京都公文書館の史料を使って、終戦後から清瀬市誕生までの基本的な市としての課題を見ていく、つまり清瀬の戦後史の基本的な史料をご紹介しますような調査報告になると思います。

委 員 長 よろしいでしょうか。ほかになれば、このような形で進めることといたします。石碑・石仏探訪の書き手については後日調整ということでご協力よろしくお願いします。

委 員 了承

5. 市制施行 50 周年記念誌（啓発版）について

委 員 長 市制施行 50 周年記念誌について、事務局からご報告願います。

事 務 局 市史編さん事業の一環として、市制施行 50 周年記念誌を刊行することになっております。フルカラーの本文 64 頁、3,000 部を刊行し、販売する予定になっております。12 月に業者選定のための入札を行います。仕様書に記載する出来上がりの紙質などについては、回覧中の『市制施行 50 周年記念 国分寺市の今昔』を参考にしています。

名称につきまして、委員のみなさまから案を挙げていただきましたものを一覧にしてお配りしました。名称は今回の委員会でお決めいただきたくよろしくお願いします。

委 員 長 ありがとうございます。名称について、いかがでしょうか。

副 市 長 写真がメインということですし、『清瀬市の 50 年 あの頃 この景色』のように、優しい表現がよいかと思います。副題として「清瀬市市制施行 50 周年記念」といった言葉を入れてほしいです。

委 員 やわらかい言葉がよいですね。

委 員 「けやき」を提案しました。「清瀬市市制施行 50 周年記念」は当然入るものと思いました。写真がメインということであれば、そのことに触れた言葉が入るのがよいかと思います。その意味では「写真と図版でふり返る清瀬の歴史」など良いのではないのでしょうか。

委 員 長 副題として「清瀬市市制施行 50 周年記念」あるいは「清瀬市市制施行 50 周年記念誌」がつくことについては、よろしいでしょうか。

委 員 了承

委 員 長 タイトルについて、いかがでしょうか。現代の範囲になりますけれども、現代部会長いかがでしょうか。

現代部会長 優しい表現の方が、肩ひじ張らない感じで読めてよいかと思います。

病院の待合で読めるようなものという感じですね。背表紙にこだわりますが、パッと見て何の本かわかるのが重要です。その意味では『清瀬市の 50 年 あの頃 この景色』かと思います。ただ、副題がつくと「清瀬市」を繰り返すことになるので、『清瀬の 50 年 あの頃 この景色 ～市制施行 50 周年記念～』とするのがよいかと思います。

委 員
委 員 長
現代部会長

私もそれがよいと思います。

ほかにありませんか。

今、大きく書いてくださったのを見ると、50 が重ならない方がよいですね。『清瀬 あの頃 この景色』としてはいかがでしょうか。副題には「記念誌」と「誌」が入った方がよいと思います。

委 員 長

いかがでしょうか。『清瀬 あの頃 この景色 ～市制施行 50 周年記念誌』ということでよろしいでしょうか。

委 員

了承

6. その他

委 員 長

おめでたいお話が遅くなりましたが、このたび、栗山究委員ならびに齊藤靖夫委員が、それぞれの功績から市民表彰を受けられました。おめでとうございます。

委 員

拍手

委 員 長

次に事務局から委員の退任についてご報告いただきます。

事 務 局

近代部会長の退任についてご報告します。近代部会長をお願いしていた高村聰史先生が、一身上の都合により 7 月 31 日を以て退任されました。今年度中につきましては現代部会長の黒川先生に兼務いただき、新年度の早い時期に後任の方をと思っております。

なお、逝去された坂間和英委員の後任につきましては、委員任期の区切りである来年の 11 月までに検討したいと考えております。

委 員 長

これにつきまして、よろしいでしょうか。

委 員

了承

委 員 長

ほかにありますでしょうか。

事 務 局

前回の委員会で、資料提供の呼びかけについてなにか広報できるものがほしいというご意見が出ておりました。「市史で候」六十一の巻に「昭和の団地資料が語るもの」として資料収集の意味や呼びかけについて書いておりますので、お言葉を添えてお配りいただき、資料提供を呼び掛けていただけたらと思います。コピーを 5 部ずつお配りしております。

委員長 ありがとうございます。委員のみなさまにはご協力をよろしくお願ひ
します。

今、気が付きましたが、「市史で候」は次の号がプリントアウト版の
No.100 を迎えようとしています。図書館や市民センターにファイルを置
いているということですが、他にも簡単な製本で病院などの待合に置いて、
本の形で皆さんに読んでいただけるような工夫ができればと思いますが、
いかがでしょうか。大きな予算をかけずにできると思うので、市内の
各所においていただくよう、ぜひご検討ください。

事務局 ご提案ありがとうございます。実現に向けて検討したいと思います。
No.100 にあたる次の巻が、ちょうど本日公開となっておりますので、そ
ちらもぜひご覧ください。

委員長 先ほども出ました各部会からの報告書についてですが、調査の成果は
なるべく公開し多くの方に見ていただけるようにしたいと考えており、
順次、報告書として各部会から刊行していきたいと考えておりますので、
ご協力いただければと思っております。

考古部会長 今後、報告書を出すということであれば、今回の考古の報告書は 150
部だけでしたが、もう少し多い部数を考えていただきたいです。

委員長 そうですね。配布するだけでなく、欲しい方には販売するという形も
とれるとよいかと思います。ほかにいかがですか。

事務局 次回の委員会については、3 月を予定しております。日程調整について
はまたあらためてご相談させていただきますのでご協力よろしくお願ひ
いたします。

委員 了承

7. 閉 会

委員長 それではこれで令和元年度第 2 回清瀬市史編さん委員会を閉会いたしま
す。ありがとうございました。

『市史研究 きよせ』第 5 号 構成案

総ページ数 84 p

○表紙：現庁舎写真

< 巻頭カラー > (頁数外 4 頁)

◇①『清瀬市史 3 資料編 古代・中世』表紙

◇②③きよせ懐かし写真館 (庁舎)

◇④予備

* 目次 (1 p)

◇『清瀬市史 3 資料編 古代・中世』刊行 (2 p)

◇「市内遺跡出土土器からみた古代の清瀬とその周辺〈仮題〉」(考古部会講座内容)
(15 p)

◇現代部会調査報告 (15 p)

◇聞き取り調査報告 (現代部会) (20 p)

◇講演会報告 (2 p)

◇専門部会調査報告 (2 p × 5 部会 = 10 p)

◇委員による石碑・石仏紹介 (1 p の紹介 × 2 = 2 p)

◇覚え書き (12 p)

基本方針 4 p / 編さん委員会開催状況 2 p / 市史で候タイトル一覧 4 p (「市史で候つまみぐい」 (1 p) 含む) / 関係者名簿 2 p

* 予備頁 (2 p)

* 資料提供のおねがい (こんな資料をお持ちではありませんか) (1 p)

* 『市史研究 きよせ』バックナンバー紹介 (1 p)

* 編集後記・書誌 (1 p)